

令和5年度 算数科 第3学年 評価規準

江戸川区立第四葛西小学校

2023	年度									
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月				
算数	3	東京書籍	上	8	~	25	9	4	~	4

大単元(題材名)	1. かけ算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 乗数が1増減すると積が被乗数だけ増減することがわかる。
	○ 乗法において、交換法則や分配法則が成り立つことがわかる。
	○ 乗数や被乗数が10の計算のしかたがわかり、計算することができる。
	○ 乗数や被乗数が0の乗法の意味がわかり、その積が常に0であることがわかる。
思・判・表	○ 被乗数が十いくつかの計算のしかたを考え、説明することができる。
	○ 乗数や被乗数が0の乗法の意味を考えることができる。
	○ 乗数や被乗数が10の乗法や乗法のきまりを使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 被乗数が十いくつかの計算のしかたを考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 乗数が1増減すると積が被乗数だけ増減することを理解している。	A(3)ア(イ)(ウ)
	○ 乗法において、交換法則や分配法則が成り立つことを理解している。	A(3)ア(イ)(ウ)
	○ 乗数や被乗数が10の計算のしかたを理解している。	A(3)ア(イ)(ウ)
	○ 乗数や被乗数が10の計算をしている。	A(3)ア(イ)(ウ)
	○ 乗数や被乗数が0の乗法の意味がわかり、その積が常に0であることを理解している。	A(3)ア(イ)(ウ)
	○ 未知数を□として乗法の式に表し、□を求める方法を理解している。	A(3)ア(イ)(ウ)
思・判・表	○ 被乗数が十いくつかの計算のしかたを考え、説明している。	A(3)イ(ア)
	○ 乗数や被乗数が0の乗法の意味を考えている。	A(3)イ(ア)
	○ 乗数や被乗数が10の乗法や乗法のきまりを使って、適用問題を解いている。	A(3)イ(ア)

令和5年度 算数科 第3学年 評価規準

江戸川区立第四葛西小学校

主体的に学習に取り組む態度	○ 分配法則を活用して、被乗数が十いくつかの計算のしかたを考え、わかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 被乗数の十いくつかを、いくつかいくつかに分ければよいかを考え、友だちと話し合っている。	
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2 年	かけ算(1)
2 年	かけ算(2)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. かけ算のきまり①	1	○ 乗法では、乗法の交換法則と、乗数が1増減すると積は被乗数だけ増減することを知る。	(1)ウ, エ
		・ 上記のことを式に表し確認する。 $7 \times 4 = 4 \times 7$, $7 \times 4 = 7 \times 3 + 7$, $7 \times 4 = 7 \times 5 - 7$ 。	
1. かけ算のきまり②	1	○ 乗法では、被乗数を分けて計算しても、答えは同じになることを知る。	(1)ウ, エ
		・ 9×7 の被乗数の9を5と4に分けて、 $5 \times 7 = 35$, $4 \times 7 = 28$, $35 + 28 = 63$ 。	
1. かけ算のきまり③	1	○ 乗法では、乗数を分けて計算しても、答えは同じになることを知る。	(1)ウ, エ
		・ 9×7 の被乗数の7を3と4に分けて、 $9 \times 3 = 27$, $9 \times 4 = 36$, $27 + 36 = 63$ 。	
1. かけ算のきまり④	1	○ 被乗数や乗数が10の乗法のしかたを考える。	(1)ウ, エ
1. かけ算のきまり⑤	1	○ 被乗数が10より大きいかけ算のしかたを考える。	(1)ウ, エ
2. 0のかけ算	1	○ どんな数に0をかけても、0にどんな数をかけても、答えは0になることを知る。	(1)イ
3. かける数とかけられる数	1	○ 未知数に□を使った乗法の式に表し、九九の表を使ったり、順番に数をあてはめたりして□を求める。	(1)ウ, エ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で、九九の答えを活用した模様づくりに取り組む。	(1)イ
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、乗法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、乗法のきまりを生かして、乗法のしかたを工夫する。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	27	~	33	4

大単元(題材名)	2. 時ごとと時間のもともめ方		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 測定		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ ある時刻の一定時間前後の時刻を求めることができる。
	○ 時刻と時刻の間の時間を求めることができる。
	○ 時間と時間の和を求めることができる。
	○ 短い時間の単位「秒」を知り、秒を用いて時間を表すことができる。
	○ 1分＝60秒の単位の関係がわかる。
思・判・表	○ 正時をまたぐ時刻の求め方を考えることができる。
	○ 正時をまたぐ時間の求め方を考えることができる。
	○ 合わせた時間が60分以上の時間の求め方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 時刻や時間に関心を持ち、必要な時刻や時間を求める計算を日常生活に生かそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領
知・技	○ ある時刻の一定時間後の時刻(正時をまたぐ)を求めている。	C(2)ア(ア)(イ)
	○ ある時刻の一定時間前の時刻(正時をまたぐ)を求めている。	C(2)ア(ア)(イ)
	○ 時刻と時刻の間の時間を求めている。	C(2)ア(ア)(イ)
	○ 時間と時間の和を求めている。	C(2)ア(ア)(イ)
	○ 短い時間の単位「秒」を知り、1秒の長さを確かめている。	C(2)ア(ア)(イ)
	○ 1分＝60秒の単位の関係を理解している。	C(2)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 正時をまたぐ時刻の求め方を考えている。	C(2)イ(ア)
	○ 正時をまたぐ時間の求め方を考えている。	C(2)イ(ア)
	○ 合わせた時間が60分以上の時間の求め方を考えている。	C(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 時刻や時間に関心を持ち、必要な時刻や時間を求める計算を日常生活に生かそうとしている。	

【関連する既習内容】

学年		内容
2	年	時ごとと時間
	年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的
1.時ごとと時間のもともめ方①	1	○ 正時をまたぐ時刻の求め方を考える。また、正時をまたぐ時間の求め方を考える。	(1)イ
		・ 8時40分から30分後の時刻。8時40分から9時までは20分。30分たった時刻だからあと10分。だから9時10分。	
		・ 9時50分から10時10分までの時間。9時50分から10時までは10分。10時から10時10分までは10分。だから20分。	
1.時ごとや時間のもともめ方②	1	○ ある時刻から一定時間前の時刻や、時間と時間の和を求める。	(1)イ
2.短い時間	1	○ 秒の単位を知り、1分＝60秒がわかる。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、時刻と時間の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	

[illegible][illegible][illegible]

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	3	東京書籍	上	34	9	5	~	5	

大単元(題材名)	3. わり算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 等分除，包含除の意味を理解し，その場面を除法の式で表すことができる。
	○ 除法の答えは，乗法九九を用いて求めることができることを知り，計算することができる。
	○ 0をわったり，1でわったりする計算の意味を理解し，正しく計算することができる。
思・判・表	○ 具体的な場面を通して，等分除，包含除の意味や意味の違いを既習の乗法をもとに考えることができる。
	○ 除法を使って，適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 除法の意味や計算のしかたを考え，考えたことを友だちと話し合い，自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 等分除の意味を理解し，その場面を除法の式で表せることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 包含除の意味を理解し，その場面を除法の式で表せることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ わられる数，わる数の用語と意味を理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 除法の答えは，乗法九九を用いて求めることができることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 除法で，九九1回適用のわりきれる計算をしている。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 被除数が0，除数が1，答えが1の除法の意味を理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 被除数が0，除数が1，答えが1の除法の計算をしている。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
思・判・表	○ 具体的な場面を通して，等分除の意味を考えている。	A(4)イ(ア)(イ)
	○ 具体的な場面を通して，包含除の意味を考えている。	A(4)イ(ア)(イ)
	○ 具体的な場面を通して，等分除，包含除の違いを既習の乗法をもとに考えている。	A(4)イ(ア)(イ)
	○ 除法を使って，適用問題を解いている。	A(4)イ(ア)(イ)
主体的に学習に取り組む態度	○ 除法の意味を乗法との関連や具体物の操作などから考え，説明している。	
	○ 除法の計算のしかたを考え，友だちと話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(1)
2年	かけ算(2)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 1人分の数をもとめる計算①	2	○ わり算の用語とその意味を知り，1人分の数を求める式を知る。	(1)イ
1. 1人分の数をもとめる計算②	1	○ 除法の答えは，除数の段の九九で求められることを知る。	(1)イ
2. 何人に分けられるかをもとめる計算①	2	○ わられる数，わる数の用語とその意味を知り，何人に分けられるかを求める式を知る。	(1)イ
2. 何人に分けられるかをもとめる計算②	1	○ 答えの求め方を考える。包含除の場面も，除数の段の九九で求められることを知る。	(1)イ
2. 何人に分けられるかをもとめる計算③	1	○ 除法の式から，等分除と包含除の問題を考える。	(1)ウ
		・ 等分除の問題も包含除の問題も除法の式になり，除数の段の九九で答えを求めること	
3. 0や1のわり算	1	○ 被除数が0，除数が1，答えが1の除法の計算をする。	(1)イ
		・ 0をどんな整数でわっても，答えは0になることを理解する。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，除法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，等分除と包含除の場面について考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	48	8	5	6

大単元(題材名)	4. たし算とひき算の筆算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 4位数までの加法で、くり上がりが1回、2回、3回の場合の計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 4位数までの減法で、くり下がりが1回、2回、3回の場合の計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
思・判・表	○ 4位数までの加法で、くり上がりが3回までの計算方法を2位数の計算をもとに考えることができる。
	○ 4位数までの減法で、くり下がりが3回までの計算方法を2位数の計算をもとに考えることができる。
	○ 加法や減法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 4位数までの加法で、くり上がりがある計算方法を考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。
	○ 4位数までの減法で、くり下がりがある計算方法を考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ (3位数)+(3位数)で、百の位にくり上がる計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (3位数)+(3位数)で、十の位、百の位にくり上がる計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (3位数)+(3位数)で、くり上がり3回の計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (4位数)+(3・4位数)の計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (3位数)−(3位数)で、百の位からくり下がる計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (3位数)−(3位数)で、十の位、百の位からくり下がる計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (3位数)−(3位数)で、十の位からくり下げられない計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
	○ (4位数)−(3・4位数)の計算を筆算で計算している。	A(2)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 4位数までの加法で、くり上がりがある計算方法を2位数の計算をもとに考えている。	A(2)イ(ア)
	○ 4位数までの減法で、くり下がりがある計算方法を2位数の計算をもとに考えている。	A(2)イ(ア)
	○ 加法や減法を使って、適用問題を解いている。	A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 4位数までの加法で、くり上がりがある計算方法を考え、説明している。	
	○ 4位数までの減法で、くり下がりがある計算方法を考え、説明している。	
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 たし算とひき算のひっ算
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 3けたの数のたし算①	1	○ (3位数)+(3位数)で、百の位にくり上がる筆算方法を考え、筆算で計算する。	(1)イ
		・ 365+472で、一の位は5+2で7。十の位は6+7=13で百の位に1くり上げる。百の位は1+3+4=8で答えは837。	
1. 3けたの数のたし算②	1	○ (3位数)+(3位数)で、十の位、百の位、千の位にくり上がる筆算方法を考え、筆算で計算する。	(1)ウ
2. 3けたの数のひき算①	1	○ (3位数)−(3位数)で、百の位からくり下がる筆算方法を考え、筆算で計算する。	(1)イ
		・ 315−194で、一の位は5−4で1。十の位はひけないので百の位から1くり下げて11−9=2。百の位は2−1=1で答えは121。	
2. 3けたの数のひき算②	1	○ (3位数)−(3位数)で、百の位から波及的にくり下がる筆算方法を考え、筆算で計算する。	(1)ウ
2. 3けたの数のひき算③	1	○ (千)−(3位数)の計算のしかたを理解し、筆算で計算する。	(1)イ
3. 大きい数の筆算①	1	○ 4位数を含む加法及び減法の計算を筆算で計算する。	(1)ウ
3. 大きい数の筆算②	1	○ 答えが9000になる加法の式を考えたり、4位数の減法の計算をしったりする。	(1)ウ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、加法と減法の筆算の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、数のしくみに注目し、筆算のしかたを考える。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	3	東京書籍	上	60	7	6	6		

大単元(題材名)	5. 長いものの長さのはかり方と表し方		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 測定		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	☐ 巻尺の必要性や目盛りの読み方，測定のしかたがわかる。
	☐ 巻尺を用いて，長さの見当をつけていろいろなものの長さを測定することができ，巻尺のよさがわかる。
	☐ 道のりと距離の用語と意味を理解するとともに，長さの単位kmを知り，1km = 1000mの関係がわかる。
思・判・表	☐ 目的に応じて単位や測定計器を考慮することができる。
	☐ 道のりや距離のちがいを考えて，道のりや距離を求めることができる。
主体的に学習に取り組む態度	☐ 身の回りの長いものについて測定しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	☐ 巻尺の必要性や目盛りの読み方，測定のしかたを理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	☐ 巻尺を用いて，長さの見当をつけていろいろなものの長さを測定している。	C(1)ア(ア)(イ)
	☐ 丸いもののまわりを測定するときに便利等，巻尺のよさを理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	☐ 道のりと距離の用語とその意味を理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	☐ 長さの単位kmを知り，1km = 1000mの関係を理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	☐ 目的に応じて単位や測定計器を考えている。	C(1)イ(ア)
	☐ 道のりや距離のちがいを考えて，道のりや距離を求めている。	C(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	☐ 身の回りの長いものについて，進んで測定している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 長さのたんい
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.長いものの長さのはかり方①	1	☐ 長いものの長さを測るには巻尺が適していることを知り，巻尺の目盛りの読み方を知る。	(1)ア
1.長いものの長さのはかり方②	2	☐ 教室の縦と横の長さを測ったり，長さの見当をつけてから学校の中のいろいろなものを測る。 ・ 巻尺は，長いところの長さや丸いもののまわりの長さを測るときに便利であることを知る。	(1)ア
2.長い長さのたんい	1	☐ 道のりと距離の用語と意味を知る。また，1km = 1000mを知る。 ・ 長い長さは，kmを使うと小さい数で表せるというよさにふれる。	(1)イ
まとめ①	2	☐ 「いかしてみよう」で，10mの長さの見当をつけて測ったり，1kmを実際に歩いて長さを体感する。	(1)ア
まとめ②	1	☐ 「たしかめよう」で，長いものの長さの基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		☐ 「つないでいこう算数の目」で，測る道具を選んだり，長さやかさの表し方を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	70	3	6	6

大単元(題材名)	6. 暗算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	☐ 数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算のしかたについて理解する。
	☐ 2位数どうしの加法、減法を暗算で計算することができる。
思・判・表	☐ 暗算による計算のしかたを考え、説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	☐ 暗算のよさに気づき、生活や学習に用いようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

			対応する学習指導要領の項目
知・技	☐ 被減数が100の減法の暗算のしかたを理解している。		A(2)ア(イ)
	☐ 2位数どうしの加法と減法の暗算のしかたを考え、暗算をする。		A(2)ア(イ)
思・判・表	☐ 被減数が100の減法の暗算のしかたについて説明している。		A(2)イ(ア)
	☐ 2位数どうしの加法と減法の暗算のしかたを考え、説明している。		A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	☐ 暗算のよさについて学習感想に記述している。		
	☐ 暗算を生活や学習に用いている。		

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 計算のくふう
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
暗算①	1	☐ 被減数が100の減法の暗算のしかたを理解する。	(1)ウ, エ
		・ 数を分けたり, およそ何十とみたりすると, 暗算できることをまとめる。	
		・ たして100になる2つの数の特徴を考える。	
暗算②	1	☐ 2位数どうしの加法と減法の暗算のしかたを考え説明する。	(1)ウ, エ
		・ 数を分けたり, およそ何十とみたりすると, 暗算できることをまとめる。	
暗算③	1	☐ 2位数どうしの加法と減法を暗算で計算する。	(1)ウ

2023年度

教科算数

学年3

教科書東京書籍

上下上

教科書ページ74

配当時数7

配当月7

～83～7

大単元(題材名)	7. あまりのあるわり算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 除法で、あまりのある場合の意味とその計算方法について理解し、計算することができる。
	○ 除法のあまりの意味や、あまりと除数の関係がわかる。
	○ あまりのある除法の検算の式を理解し、検算することができる。
思・判・表	○ 除数とあまりの大きさの関係を考え、除数よりあまりが小さくなることを説明することができる。
	○ あまりのある除法を使って、適用問題を解くことができる。
	○ あまりのある除法を適用する場面で、あまりの処理のしかたがわかり、問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ あまりのある除法を適用する場面で、あまりの意味や処理のしかたを考え、説明しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ あまりのある除法の答えも、除数の段の九九を使って求めることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ あまりのある除法で、あまりは除数より小さいことを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ あまりのある除法の検算の式を理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 検算の式を利用して、あまりのある除法の答えの確かめをしている。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
思・判・表	○ 除数とあまりの大きさの関係を考え、除数よりあまりが小さくなることを説明している。	A(4)イ(ア)(イ)
	○ あまりのある除法を使って、適用問題を解いている。	A(4)イ(ア)(イ)
	○ あまりのある除法を適用する場面で、あまりの処理のしかたを考え、問題を解決している。	A(4)イ(ア)(イ)
主体的に学習に取り組む態度	○ あまりのある除法を適用する場面で、あまりの意味や処理のしかたを考え、処理のしかたをわかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(1)
2年	かけ算(2)
3年	わり算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.あまりのあるわり算①	1	○ 除法であまりがある場合があることを知る。	(1)イ
		・ 「わりきれ」「わりきれない」の用語の意味を知る。	
1.あまりのあるわり算②	1	○ あまりの大きさについて考え、あまりは除数より小さくなるようにすることを理解する。	(1)イ
1.あまりのあるわり算③	1	○ あまりのある除法の答えも、除数の段の九九を使って求めることを知る。	(1)イ
1.あまりのあるわり算④	1	○ あまりのある除法の検算の式を知り、答えを確かめる。	(1)イ
		・ 「わる数×商＋あまり＝わられる数」で、答えの確かめができることを知る。	
1.あまりのあるわり算⑤	1	○ あまりのある除法の計算練習と、答えの確かめをする。	
2.あまりを考える問題	1	○ あまりの処理のしかたについて考え、説明する。	(1)イ, エ
		・ ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。	
		・ タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、あまりのある除法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、除数とあまりの大きさに注目し、除法のしかたを考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	84	10	9	9

大単元(題材名)	8. 大きい数のしくみ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 1億までの数のしくみがわかり、1億までの数を読んだり、書いたりできる。
	○ 数直線の用語を知り、数直線上の1億までの数を読んだり、数直線上に表したりできる。
	○ 大きな数の大小を等号、不等号を使って表すことができる。
	○ ある数を10倍、100倍、1000倍した数や10でわった数の求め方がわかる。
	○ 大きな数をいろいろな見方で表すことができる。
思・判・表	○ 1000を単位として数を相対的にみて、数の構成について考えることができる。
	○ ある数を、数の構成をもとにいろいろな見方で考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 1億までの数を既習の数の捉え方をもとに考え、表現しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 一万の位までの数のしくみを知り、一万の位までの数を読んだり書いたりしている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 十万、百万、千万の位を知り、千万の位までの数を読んだり書いたりしている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 1000を単位として数を相対的にみて、大きな数を表している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 数直線上の1億までの数を読んだり、数直線上に表したりしている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 等号、不等号の用語とその意味を理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 大きな数の大小を等号、不等号を使って表している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ ある数を10倍、100倍、1000倍した数や10でわった数の求め方を理解し、求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 1000を単位として数を相対的にみて、数の構成について考え、表している。	A(1)イ(ア)
	○ ある数を、数の構成をもとにいろいろな見方で考え、表現している。	A(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 1万を10こ集めた数が10万、10万を10こ集めた数が100万のように、十進位取り記数法をまとめている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 4けたの数
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 数の表し方①	1	○ 一万の位までの数のしくみを知り、一万の位までの数を読んだり書いたりする。	(1)イ
1. 数の表し方②	2	○ 十万の位、百万の位、千万の位を知り、千万の位までの数を読んだり書いたりする。	(1)イ
		・ 十進位取り記数法のしくみについて理解する。	
1. 数の表し方③	1	○ 数の相対的な大きさについて調べる。	(1)ウ
		・ 1000をもとにした数の見方を調べる。1000を23こ集めた数は23000等。	
1. 数の表し方④	1	○ 数直線の用語を知り、大きな数を数直線に表し、大小の理解をする。また、1億について知る。	(1)ウ
1. 数の表し方⑤	1	○ 等号、不等号の用語とその意味を知り、大きな数の大小を等号、不等号を使って表す。	(1)ウ
1. 数の表し方⑥	1	○ 数の構成を多面的にとらえ、いろいろな見方をする。	(1)ウ
2. 10倍した数と10でわった数	1	○ 数を10倍したり、一の位が0の数を10でわったりする計算の求め方がわかる。	(1)ウ
2. 10倍した数と10でわった数②	1	○ 10倍した数をさらに10倍すると、100倍したことになり、位が2つ上がることを理解する。また、1000倍した数を考える。	(1)ウ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、10000より大きい数の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、大きな数の表し方やしくみを考えたり、もとにする数に注目し計算方法を考えたりする。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	3	東京書籍	上	98	11	9	10		

大単元(題材名)	9. かけ算の筆算(1)		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ (2・3位数)×(1位数)の計算原理がわかる。
	○ (2・3位数)×(1位数)の筆算のしかたがわかり、筆算で正しく計算することができる。
	○ 乗法の結合法則が成り立つことがわかり、3口の計算を工夫して計算することができる。
思・判・表	○ (2・3位数)×(1位数)の筆算方法を、被乗数を位ごとに分けて計算するしかたと結びつけて考えることができる。
	○ (2・3位数)×(1位数)の計算を使って、適用問題を解くことができる。
	○ 乗法の言葉の式やテープ図などを用いて問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ (2・3位数)×(1位数)の筆算の方法を考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ (何十、何百)×(1位数)の計算方法を理解し、計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算原理を理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算で、部分積がくり上がらない計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算で、一の位の部分積がくり上がる計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算で、十の位の部分積がくり上がる計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算で、一の位、十の位の部分積がくり上がる計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(1位数)の計算で、部分積を加えたときに百の位にくり上がる計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (3位数)×(1位数)の計算で、部分積がくり上がらない計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (3位数)×(1位数)の計算で、一、十、百の位の部分積がくり上がる計算を筆算でしている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 乗法の結合法則が成り立つことを理解し、3口の計算を工夫して計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ (2・3位数)×(1位数)の筆算方法を考えている。	A(3)イ(ア)
	○ (3位数)×(1位数)の計算で、被乗数の十の位が0と一の位が0の筆算方法を考えている。	A(3)イ(ア)
	○ (2・3位数)×(1位数)の計算を使って、適用問題を解いている。	A(3)イ(ア)
	○ 乗法の言葉の式やテープ図などを用いて問題を解決している。	A(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ (2位数)×(1位数)の筆算方法を、被乗数を位ごとに分けて計算するしかたと結びつけて考えている。	
	○ (3位数)×(1位数)の筆算方法を、(2位数)×(1位数)の筆算方法をもとに考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(1)
2年	かけ算(2)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 何十, 何百のかけ算	2	○ (何十, 何百)×(1位数)の計算のしかたを知り, 計算する。	(1)イ, エ
2. 2けたの数に1けたの数をかける計算①	2	○ (2位数)×(1位数)の計算原理や筆算のしかたを知り, 部分積がくり上がらない計算を筆算です。 ・ 23×3 の計算は, 23を20と3に位ごとに分けて考えれば, 既習の計算が使えることをまとめる。	(1)イ, エ
2. 2けたの数に1けたの数をかける計算②	1	○ (2位数)×(1位数)の計算で, 一の位の部分積がくり上がる計算を筆算です。	(1)ウ
2. 2けたの数に1けたの数をかける計算③	1	○ (2位数)×(1位数)の計算で, 十の位の部分積がくり上がる計算と一の位, 十の位の部分積がくり上がる計算を筆算です。	(1)ウ
2. 2けたの数に1けたの数をかける計算④	1	○ (2位数)×(1位数)の計算で, 部分積を加えたときに百の位にくり上がりのある計算を筆算です。	(1)ウ
3. 3けたの数に1けたの数をかける計算①	1	○ (3位数)×(1位数)の計算原理や筆算のしかたを知り, 部分積がくり上がらない計算を筆算です。 ・ 被乗数が3位数になっても, これまでに学習した乗法と同じように考えればできることをまとめる。	(1)イ, エ
3. 3けたの数に1けたの数をかける計算②	1	○ (3位数)×(1位数)の計算で, 一の位, 十の位, 百の位の部分積がくり上がる計算を筆算です。	(1)ウ, エ
3. 3けたの数に1けたの数をかける計算③	1	○ 3つの数の乗法が1つに表せることを知り, 結合法則についてまとめる。 ・ 3口の数の乗法では, はじめの2つの数を先にかけても, あとの2つの数を先にかけても, 答えは同じになることをまとめる。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で, 乗法の筆算の基本的な学習内容を理解しているかを確認し, それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で, 乗法のしかたを考えたり, 乗法のきまりを使った計算の工夫を説明したりする。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	114	4	10	10

大単元(題材名)	10. 大きい数のわり算, 分数とわり算		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたがわかり, 計算することができる。
	○ (2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算のしかたがわかり, 計算することができる。
	○ ある数の1/4の長さを求めるには, ある数を4でわることを理解することができる。
思・判・表	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたを10をもとにして考えることができる。
	○ (2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算(各位整除)のしかたを位ごとに分けて考えることができる。
	○ (2位数)÷(1位数)を使って, 適用問題を解くことができる。
	○ 分数と除法の関係を考えて, 問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 数の構成をもとに(何十・2位数)÷(1位数)の計算のしかたを考え, 考えたことを友だちと話し合ったり, 説明したりしようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたを理解し, 計算している。	A(4)ア(オ), A(6)ア(ア)
	○ (2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算のしかたを理解し, 計算している。	A(4)ア(オ), A(6)ア(ア)
	○ ある数の1/4の長さを求めるには, ある数を4でわることを理解している。	A(4)ア(オ), A(6)ア(ア)
思・判・表	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたを10をもとにして考えている。	A(4)イ(ア)(イ), A(6)イ(ア)
	○ (2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算(各位整除)のしかたを位ごとに分けて考えている。	A(4)イ(ア)(イ), A(6)イ(ア)
	○ (2位数)÷(1位数)を使って, 適用問題を解いている。	A(4)イ(ア)(イ), A(6)イ(ア)
	○ 分数と除法の関係を考えて, 問題を解いている。	A(4)イ(ア)(イ), A(6)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたを10をもとにして考え, 友だちと話し合っている。	
	○ (2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算(各位整除)のしかたを考え, その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(1)
2年	かけ算(2)
2年	分数

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 大きい数のわり算①	1	○ (何十)÷(1位数)=(何十)の計算のしかたがわかり, 計算する。 ・ $60 \div 3$ は, 10をもとにして考えると, 10が $6 \div 3$ で2。だから $60 \div 3 = 20$ 。	(1)イ, エ
1. 大きい数のわり算②	1	○ (何十何)÷(1位数)=(何十何)の計算(各位整除)のしかたがわかり, 計算する。 ・ $69 \div 3$ は, 69を60と9に位ごとに分けて, $60 \div 3 = 20$ 。 $9 \div 3 = 3$ 。あわせて23。	(1)イ, エ
2. 分数とわり算①	1	○ ある数の1/4の長さを求めるには, ある数を4でわることを理解する。	(1)イ
2. 分数とわり算②	1	○ 84cmと88cmの1/4の長さが, どちらも, もとの長さの1/4と同じでも, 長さがちがう理由を考える。	(1)イ

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	上	120	8	10	10

大単元(題材名)	11. 円と球		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 「円」, 円の「中心」「半径」「直径」の用語とその意味がわかる。
	○ 円の半径と直径の関係がわかる。
	○ コンパスを使って, 円をかくたり, 長さを写し取って長さ比べをしたりできる。
	○ 「球」, 球の「中心」「半径」「直径」の用語とその意味がわかる。
思・判・表	○ 作図などを通して, 円は中心の位置と半径の長さで決まることに着目して, 円の性質について考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ コンパスを使って模様をかき, その美しさを味わおうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 「円」, 円の「中心」「半径」「直径」の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ウ)
	○ 円の半径と直径の関係を理解している。	B(1)ア(ウ)
	○ コンパスを使って, 円をかくている。	B(1)ア(ウ)
	○ コンパスを使って, 長さを写し取って長さを比較している。	B(1)ア(ウ)
	○ 「球」の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ウ)
思・判・表	○ 円は中心の位置と半径の長さで決まることに着目して, 円の性質について考えている。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ コンパスを使って, いろいろな模様を進んでかくている。	
	○ 自分でかくた模様や友だちのかいた模様を見て, その美しさを味わおうとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
1	年 かたちづくり
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.円①	1	○ 1つの点から同じ長さにたくさん点を打って, 丸い形がかけることから, 円のかき方を考える。	(1)ア, エ
1.円②	1	○ 円, 中心, 半径の用語とその意味を知る。	(1)ア
1.円③	1	○ 直径の用語と意味を知り, 直径の長ささと半径の長さの関係を理解する。	(1)ウ
1.円④	1	○ コンパスを使って円や模様をかく。 ・ ①半径の長さにコンパスを開く。②中心を決めて針をさす。③手首を自分のほうにひねってから, 手前から奥のほうにコンパスを1回りさせる。	(1)ア
1.円⑤	1	○ コンパスを使って等しい長さを写し取り, 長さを比べる。 ・ コンパスは円をかくだけでなく, 等しい長さを写し取ることもできることをまとめる。	(1)ア
2.球	1	○ 球の用語と意味を知る。 ・ 球を半分に切ったとき, その切り口の円の中心, 半径, 直径をそれぞれ球の中心, 半径, 直径ということを知る。	(1)ア
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で, コンパスを使って工作用紙に模様をかくて, こまをつくる。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で, 円と球の基本的な学習内容を理解しているかを確認し, それに習熟する。 ○ 「つないでいこう算数の目」で, 図形の特徴に注目し, コンパスの役割を説明する。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	2	12	11	11

大単元(題材名)	12. 小数		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ かさの測定の操作を通して，端数部分の大きさを表すのに小数が用いられることを知り，小数の表し方，読み方がわかる。
	○ 小数，小数点，整数の用語とその意味がわかる。
	○ かさや長さを小数を用いて単名数で表すことができる。
	○ 小数第一位の用語とその意味を知り，数直線上に表された小数を読んだり，小数を数直線に表したりできる。
	○ 小数の構成や相対的な数について理解するとともに，大小比較ができる。
	○ 小数第一位までの小数の加法，減法の計算原理や方法を理解し，計算することができる。
思・判・表	○ 1つの小数をいろいろな見方で表現することができる。
	○ 小数の加減計算を整数の加減計算をもとに考えることができる。
	○ 小数の加減計算を使って，適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数の加減計算のしかたについて考え，考えたことを友だちと話し合い，自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 小数の用い方を知り，小数の表し方，読み方を理解している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数，小数点，整数の用語とその意味を理解している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ かさや長さを小数を用いて単名数で表している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数第一位の用語とその意味を理解している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 数直線上に表された小数を読んだり，小数を数直線に表したりしている。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数のしくみや相対的な大きさについて理解している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数の大小比較をして，不等号を用いて表している。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数第一位までの(純小数)+(純小数)で和が1までの計算をしている。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数第一位までの(帯小数)+(帯小数)，(帯小数)+(整数)の計算を筆算でしている。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 小数第一位までの(純小数)+(純小数)の逆の減法や，1から小数をひく減法計算をしている。	A(5)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 小数第一位までの(帯小数)-(帯小数)，(整数)-(帯小数)の計算を筆算でしている。	A(5)ア(ア)(イ)
	○ 1つの小数をいろいろな見方で表現している。	A(5)イ(ア)
	○ 小数の加法計算を整数の加法計算をもとに考えている。	A(5)イ(ア)
	○ 小数の減法計算を整数の減法計算をもとに考えている。	A(5)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数の加減計算を使って，適用問題を解いている。	A(5)イ(ア)
	○ 1つの小数をどのように表現したらよいかを考え，友だちと話し合っている。	
	○ 整数の加法と関連付けて，小数第一位までの加法の計算方法を考え，わかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 整数の減法と関連付けて，小数第一位までの減法の計算方法を考え，わかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
	年
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 1より小さい数の表し方①	1	○ 1Lを10等分した1個分のかさを0.1Lと書き、れい点一リットルと読むことを知る。	(1)イ
1. 1より小さい数の表し方②	1	○ 小数, 小数点, 整数の用語とその意味を知り, 小数を使ってはしたの大きさを表す。	(1)ウ
1. 1より小さい数の表し方③	1	○ 1cmより短い長さをcmで表す方法を考え, $1\text{mm} = 0.1\text{cm}$ であることを知る。	(1)イ
1. 1より小さい数の表し方④	1	○ 数直線上に表された小数を読んだり, 数直線に小数を表したりする。	(1)ウ
2. 小数のしくみ①	1	○ 小数第一位の用語を知り, 小数第一位までの位取りのしくみや数の構成を理解する。	(1)ウ
		・ 147.2は100が1こ。10が4こ。1が7こ。0.1が2こを合わせた数。	
2. 小数のしくみ②	1	○ 小数第一位までの小数の大きさを比べ, 不等号を使って表す。	(1)ウ, エ
3. 小数のしくみとたし算, ひき算①	1	○ 小数第一位どうしの小数の加法の計算のしかたを理解し, 計算する。	(1)イ
3. 小数のしくみとたし算, ひき算②	1	○ 小数第一位どうしや1から小数をひく減法の計算のしかたを理解し, 計算する。	(1)イ
3. 小数のしくみとたし算, ひき算③	1	○ 小数第一位までの小数の加減法の筆算のしかたを理解し, 計算する。	(1)ウ
4. 小数のいろいろな見方	1	○ 小数についていろいろな見方や表し方ができることを理解する。	(1)ウ, エ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で, 絵地図を見て, 道のりや距離を小数を用いて表す。	(1)イ
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で, 小数の基本的な学習内容を理解しているかを確認し, それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で, 数の表し方を考えたり, もとにする数に注目して計算のしかたを考えたりする。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	22	9	11	11

大単元(題材名)	13. 重さのたんいとはかり方		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 測定		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 重さ比べを通して、重さを量として捉え、重さの単位にgがあることがわかる。
	○ 重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、はかりの目盛りの読み方、使い方がわかる。
	○ 重さの単位kgやtを知り、 $1\text{kg} = 1000\text{g}$ や $1\text{t} = 1000\text{kg}$ の関係がわかる。
	○ 重さの単位の関係と既習の長さやかさの単位の関係で似ているところがあることがわかる。
思・判・表	○ 重さについても加法、減法が適用できることを理解し、重さに関する問題を解決することができる。
	○ 重さの単位の関係と既習の長さやかさの単位の関係で、似ているところを説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ ものの重さを量るとき、重さを予想して量感を身につけようとする。
	○ 重さの単位の関係と既習の長さやかさの単位の関係で、似ているところをみつけようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 重さ比べを通して、重さの単位グラム(g)があることを理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 1gは1円玉1個分の重さであることを理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 重さははかりを使って量ることを知り、秤量1kgのはかりの目盛りを読んでいる。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ はかりの使い方を理解し、およそ100gと思うものを探して量っている。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 重さの単位キログラム(kg)を知り、 $1\text{kg} = 1000\text{g}$ の関係を理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 秤量2kgのはかりの目盛りの読み方を理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ いろいろなものを探して見当をつけて重さを量り、量感をつかんでいる。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 重さの単位トン(t)を知り、 $1\text{t} = 1000\text{kg}$ の関係を理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
	○ 長さ、かさ、重さの単位のしくみを理解している。	C(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 重さについても加法、減法が適用できることを理解し、重さに関する問題を解決している。	C(1)イ(ア)
	○ 重さの単位の関係と長さやかさの単位の関係で、似ているところを説明している。	C(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ ものの重さを量るとき、重さを予想して量感を身につけようとしている。	
	○ 重さの単位の関係と既習の長さやかさの単位の関係で、似ているところをみつけ、まとめている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	水のかさのたんい
2年	長いものの長さのたんい

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.重さのくらべ方①	1	○ いろいろな文房具などの重さの比べ方を考える。	(1)ア, エ
1.重さのくらべ方②	1	○ 積み木や1円玉など、適当な任意単位を使って比べ、表にまとめたり、1円玉で何個分重いかを言える。	(1)ア
1.重さのくらべ方③	1	○ 重さを量として捉え、重さの普遍単位であるgを知る。	(1)ア, ウ
		・ 1円玉1個分の重さが1gであることを知り、1円玉を使っているいろいろな文房具の重さを調べる。	
2.はかりの使い方①	1	○ 重さを測定する計器として、はかりがあることを知り、はかりの目盛りの読み方、使い方を理解する。	(1)ウ
2.はかりの使い方②	1	○ 重さの単位kgを知り、 $1\text{kg} = 1000\text{g}$ の関係や秤量2kgのはかりの目盛りの読み方を理解する。	(1)イ
2.はかりの使い方③	1	○ 重さについても加法、減法が適用できることを理解し、重さに関する問題を解決する。	(1)イ
2.はかりの使い方④	1	○ 重いものの重さを表す単位tを知り、 $1\text{t} = 1000\text{kg}$ の関係を理解する。	(1)イ
2.はかりの使い方⑤	1	○ 長さ、かさ、重さの単位のしくみを調べ、似ているところを話し合う。	(1)ウ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、重さの単位の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、もとにする大きさに注目し、重さなどの表し方を考える。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	3	東京書籍	下	36	10	12	~	12	

大単元(題材名)	14. 分数		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 等分されたいくつ分かの大きさを分数を用いて表すことができる。
	○ 分母、分子の用語とその意味を知り、それらを正しく使うことができる。
	○ 分数を表した数直線をもとに、分数の構成や大きさを理解し、大小比較ができる。
	○ 分数と小数を同じ数直線に表し、 $1/10 = 0.1$ を理解し、分数と小数の大小比較ができる。
	○ 同分母分数の加減法の意味や計算方法を理解し、計算することができる。
思・判・表	○ 分数と小数の関係をもとに、大小比較のしかたを考えることができる。
	○ 同分母の真分数どうしの加法、減法や1から真分数をひく減法の計算方法を考えることができる。
	○ 分数の加減計算を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数の加減計算のしかたについて考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。
	○ 分数で表すことのよさに気づき、日常生活や学習に用いようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

14

対応する学習指導要領の項目

知・技	○ 1mを等分した1つ分の長さを分数で表している。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 分母、分子の用語とその意味を理解し、それらを正しく使っている。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 等分されたいくつ分かの大きさを分数を用いて表している。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 分数を表した数直線をもとに、分数の構成や大きさを理解し、大小を比較している。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 分数を表した数直線をもとに、1より大きい数も数直線上に分数で表している。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 同分母で和が1までの真分数どうしの加法計算をしている。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 同分母で真分数どうしの減法計算をしている。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 1から真分数をひく計算をしている。	A(6)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 分数と小数の関係をもとに、大小比較のしかたを考えている。	A(6)イ(ア)
	○ 同分母の真分数どうしの加法の計算方法を考え、説明している。	A(6)イ(ア)
	○ 同分母の真分数どうしの減法の計算方法を考え、説明している。	A(6)イ(ア)
	○ 1から真分数をひく減法の計算方法を考え、説明している。	A(6)イ(ア)
	○ 分数の加減計算を使って、適用問題を解いている。	A(6)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 整数の加法と関連付けて、同分母で和が1までの真分数どうしの加法の計算方法を考え、その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 整数の減法と関連付けて、同分母で真分数どうしの減法の計算方法を考え、その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 分数で表すよさについて考え、進んで用いている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 分数
3	年 大きい数のわり算、分数とわり算
3	年 小数

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.等分した長さやかさの表し方①	1	○ 1mを等分した長さを考え、1mの $\frac{1}{3}$ の長さを $\frac{1}{3}$ mと書き、三分の一メートルと読むことを知る。	(1)イ
1.等分した長さやかさの表し方②	1	○ 分数の大きさを単位分数の何個分で表すことを理解する。	(1)イ
1.等分した長さやかさの表し方③	1	○ 分数、分母、分子の用語と意味を知り、液量についても分数で表せることを理解する。	(1)ア、イ
		・ 「ますりんつうしん」で、分数ものさしを使って身の回りのいろいろなものの長さをはかる。	
2.分数のしくみ①	1	○ 分数を数直線上に表したり、数直線上の分数を読んだりする。	(1)ウ
2.分数のしくみ②	1	○ 1より大きい分数の表し方を知る。	(1)ウ
		・ $\frac{1}{5}$ mの6こ分の長さを $\frac{6}{5}$ mと表します。	
2.分数のしくみ③	1	○ $\frac{3}{4}$ mと、もとの長さの $\frac{3}{4}$ の違いを考える。	(1)ウ
2.分数のしくみ④	1	○ 分母が10の分数と $\frac{1}{10}$ の位までの小数の大小関係を等号、不等号を用いて表す。	(1)ウ
		・ 小数第一位のことを、 $\frac{1}{10}$ の位ともいうことを知る。	
3.分数のしくみとたし算、ひき算①	2	○ 分数の加法、減法の計算のしかたを理解し、計算する。	(1)イ
		・ 同分母分数の加法・減法は、もとにする分数のいくつ分かを考えると計算できることをまとめる。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、分数の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、もとにする大きさに注目して、分数を使った大きさの表し方を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	50	4	1	1

大単元(題材名)	15. □を使った式		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 加法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を減法で求めることができる。
	○ 減法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を加法で求めることができる。
	○ 乗法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を除法で求めることができる。
	○ 除法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を乗法で求めることができる。
思・判・表	○ ある事柄について, 数量の関係を□を使った式や図に表し, 加法と減法の相互関係を考えることができる。
	○ ある事柄について, 数量の関係を□を使った式や図に表し, 乗法と除法の相互関係を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ ある事柄について, 未知数を□を使って式や図に表すよさを知り, □を使った式に表そうとしたり, □を求めようとしたりする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 加法の場面を未知数を□として式や図に表す方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 加法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を求める方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 減法の場面を未知数を□として式や図に表す方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 減法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を求める方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 乗法の場面を未知数を□として式や図に表す方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 乗法の場面を未知数を□として式や図に表し, □を求める方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 除法の場面を未知数を□として式に表す方法を理解している。	A(7)ア(ア)
	○ 除法の場面を未知数を□として式に表し, □を求める方法を理解している。	A(7)ア(ア)
思・判・表	○ 数量の関係を□を使った式や図に表し, 加法と減法の相互関係を考えている。	A(7)イ(ア)
	○ 数量の関係を□を使った式や図に表し, 乗法と除法の相互関係を考えている。	A(7)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ ある事柄について, 未知数を□を使って式や図に表すよさを知り, □を使った式に表している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 たし算とひき算
2	年 かけ算(1) / かけ算(2)
3	年 わり算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.□を使った式①	1	○ 具体的な場面について, 加法で表される数量関係を□を用いて式に表し, 線分図を用いて□にあう数を求める。	(1)イ, エ
		・ 学級文庫に, 本が38さつあります。新しい本を何さつか買いました。本は全部で50さつになりました。	
1.□を使った式②	1	○ 具体的な場面について, 減法や乗法で表される数量関係を□を用いて式に表し, 線分図を用いて□にあう数を求める。	(1)イ, エ
1.□を使った式③	1	○ 具体的な場面で, □を使った乗法の2つの式で, □が何を表しているかを考え, 式にしたがってお話をつくる。	(1)イ
		・ $4 \times \square = 24$, $\square \times 4 = 24$ の式になる場面のお話をつくる。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で, □を使った式の基本的な学習内容を理解しているかを確認し, それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で, 場面に注目して, □を使って式に表す。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	58	10	1	2

大単元(題材名)	16. かけ算の筆算(2)		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 1・2位数や何十に何十をかける乗法の計算原理や方法を理解し、計算することができる。
	○ 2・3位数に2位数をかける乗法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 乗法では、乗数を10倍すると積も10倍になることを理解し、計算に適用することができる。
	○ 交換法則を活用し、工夫して手際よく計算することができる。
思・判・表	○ (2・3位数)×(2位数)の筆算の方法を、既習の筆算の方法をもとに考えることができる。
	○ 交換法則を活用し、手際よい計算方法を考えることができる。
	○ (2・3位数)×(2位数)の計算を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ (2・3位数)×(2位数)の筆算の方法を考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

			対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 16		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 1・2位数や何十に、それぞれ何十をかける計算をしている。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 乗法では、乗数を10倍すると積も10倍になることを理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(2位数)で部分積が2位数の乗法の計算原理や方法を理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(2位数)で部分積が2位数の計算を筆算でしている。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(2位数)で部分積が3位数の乗法の計算原理や方法を理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (2位数)×(2位数)で部分積が3位数の計算を筆算でしている。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (3位数)×(2位数)の乗法の計算原理や方法を理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ (3位数)×(2位数)の計算を筆算でしている。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 乗数の末位が0の簡便な筆算のしかたを理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 乗法の交換法則を活用した手際よい筆算のしかたを理解している。		A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ (2・3位数)×(2位数)の筆算の方法を、既習の筆算の方法をもとに考えている。		A(3)イ(ア)
	○ 交換法則を活用し、手際よい計算方法を考えている。		A(3)イ(ア)
	○ (2・3位数)×(2位数)の計算を使って、適用問題を解いている。		A(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ (2・3位数)×(2位数)の筆算の方法を、既習の(2・3位数)×(1位数)の筆算の方法をもとに考え、説明している。		

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 かけ算(1)
2	年 かけ算(2)
3	年 かけ算の筆算(1)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 何十をかける計算①	1	○ (1位数)×(何十)の計算原理や方法を理解し、計算する。	(1)イ, エ
		・ 乗数が10倍になると、答えも10倍になることをまとめる。	
1. 何十をかける計算②	1	○ (2位数)×(何十)の計算原理や方法を理解し、計算する。	(1)ウ
2. 2けたの数をかける計算①	1	○ (2位数)×(2位数)で部分積が2位数の乗法の計算原理や方法を考える。	(1)イ, エ
		・ 12×23 の計算は、乗数を位ごとに分けて考え、 $12 \times 20 = 240$, $12 \times 3 = 36$, あわせて276。	
2. 2けたの数をかける計算②	1	○ (2位数)×(2位数)で部分積が2位数の乗法の筆算方法をまとめる。	(1)ウ
2. 2けたの数をかける計算③	1	○ (2位数)×(2位数)で部分積が3位数の乗法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算する。	(1)ウ, エ
2. 2けたの数をかける計算④	1	○ (2位数)×(2位数)で、乗数の末位が0の簡便な筆算のしかたや、(1位数)×(2位数)の計算は乗法の交換法則が適用できることを理解する。	(1)ウ
2. 2けたの数をかける計算⑤	1	○ (3位数)×(2位数)の乗法の計算原理や方法を理解し、筆算方法を考える。	(1)ウ, エ
2. 2けたの数をかける計算⑥	1	○ (3位数)×(2位数)の乗法の筆算を練習する。	
3. 暗算	1	○ 簡単な場合の(2位数)×(1・2位数)の暗算のしかたを理解し、計算する。	(1)ウ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、2位数をかける計算の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、筆算のしかたや、 $25 \times 4 = 100$ を生かした計算のしかたの工夫を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	70	3	2	2

大単元(題材名)	倍の計算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 何倍かした大きさを求めるには、(もとにする大きさ)×(何倍)で求められることがわかる。
	○ 何倍かを求めるには、(比べる大きさ)÷(もとにする大きさ)で求められることがわかる。
	○ もとにする大きさを求めるときは、図に表したり、□を使って式に表したりすると考えやすくなることがわかる。
思・判・表	○ 図から、何倍かした大きさを求める式を考えることができる。
	○ 図から、何倍かを求める式を考えることができる。
	○ 図から、もとにする大きさを求める式を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 問題を整理して、テープ図に表して解決しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 何倍かした大きさを求める式を理解している。	A(3)ア(ア)(イ), A(4)ア(ア)(イ)(エ), A(7)ア(ア)
	○ 何倍かを求める式を理解している。	A(3)ア(ア)(イ), A(4)ア(ア)(イ)(エ), A(7)ア(ア)
	○ もとにする大きさを求める式を理解している。	A(3)ア(ア)(イ), A(4)ア(ア)(イ)(エ), A(7)ア(ア)
思・判・表	○ 図から、何倍かした大きさを求める式を考えている。	A(3)イ(ア), A(4)イ(ア), A(7)イ(ア)
	○ 図から、何倍かを求める式を考えている。	A(3)イ(ア), A(4)イ(ア), A(7)イ(ア)
	○ 図から、もとにする大きさを求める式を考えている。	A(3)イ(ア), A(4)イ(ア), A(7)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 問題を整理して、進んでテープ図などに表して考え、解決している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(2)
3年	わり算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
倍の計算①	1	○ 何倍かした大きさを求める計算を考え、立式して求める。 ・ もとにする大きさの4倍の大きさを求めるときは、乗法を使うことをまとめる。	(1)イ
倍の計算②	1	○ 倍を求める計算を考え、立式して何倍かを求める。 ・ 何倍かを求めるときは、除法を使うことをまとめる。	(1)イ
倍の計算③	1	○ もとにする大きさを求める計算を考え、立式して求める。 ・ もとにする大きさを求めるには、□を使って乗法の式に表すと考えやすくなることをまとめる。	(1)イ

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	74	8	2	3

大単元(題材名)	17. 三角形と角		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 二等辺三角形，正三角形の用語とその定義がわかる。
	○ 二等辺三角形，正三角形を作図することができる。
	○ 角の用語とその意味を知り，二等辺三角形，正三角形の角の大きさがわかる。
思・判・表	○ 円の半径を使っていろいろな三角形をかいたとき，それが二等辺三角形であることを定義をもとに説明することができる。
	○ 円を使って，正三角形をかく方法を定義をもとに説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 辺の長さや角の大きさに着目して，二等辺三角形や正三角形の性質を考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 辺の長さに着目して，二等辺三角形，正三角形の用語とその定義を理解している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ 辺の長さに着目して，二等辺三角形，正三角形を弁別している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ コンパスを使って，二等辺三角形を作図している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ コンパスを使って，正三角形を作図している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ 角の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ 二等辺三角形の2つの角の大きさは等しいことを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)
	○ 正三角形の3つの角の大きさは等しいことを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 円の半径を使ってかいた三角形が，二等辺三角形であることを定義をもとに説明している。	B(1)イ(ア)
	○ 円の半径を使って，正三角形のかき方を考え，その方法を定義をもとに説明している。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 辺の長さや角の大きさに着目して，二等辺三角形や正三角形の性質を考え，説明している。	
	○ 形も大きさも同じ二等辺三角形や正三角形をすき間なく敷き詰めた模様の中から，大きさのちがう二等辺三角形や正三角形をみつけている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 長方形と正方形
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.二等辺三角形と正三角形①	1	○ 辺の長さに着目して三角形の仲間分けをして，二等辺三角形，正三角形の用語とその定義を知る。	(1)ア, ウ, エ
		・ 2つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形，3つの辺の長さが等しい三角形を正三角形ということを知る。	
1.二等辺三角形と正三角形②	1	○ 二等辺三角形のかき方を考え，二等辺三角形をかく。	(1)ウ
1.二等辺三角形と正三角形③	1	○ 正三角形のかき方を考え，正三角形をかく。	(1)ア, ウ
1.二等辺三角形と正三角形④	1	○ 円の中心と半径を使っていろいろな三角形をかき，それが二等辺三角形や正三角形であることを理解する。	(1)ウ, エ
		・ 円の半径の長さは等しいので二等辺三角形であることを説明する。また，円の性質を使って正三角形をかく方法を考える。	
2.三角形と角①	1	○ 角の用語とその意味を知り，角の相等や大小を調べる。	(1)ウ
2.三角形の角②	1	○ 二等辺三角形と正三角形の角について調べ，その性質を知る。	(1)ア, ウ
		・ 二等辺三角形の2つの角の大きさは等しい。また，正三角形の3つの角の大きさはすべて等しいことを知る。	
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，形も大きさも同じ二等辺三角形や正三角形を敷き詰めたり，円を使って三角形をかく模様をつくったりする。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で，三角形と角の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，円の半径の長さに注目し，二等辺三角形や正三角形のかき方を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	90	10	3	3

大単元(題材名)	18. ぼうグラフと表		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	D データの活用		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 「正」の字を使って数量を調べ、その結果を表に整理して考察することができる。 ○ 棒グラフのしくみを知り、棒グラフを読み取ることができる。 ○ 棒グラフの表し方を知り、資料を見やすい棒グラフに表すことができる。 ○ 2つの棒グラフを組み合わせたグラフに表すことのよさがわかる。 ○ 資料を分類整理し、二次元表に表すことのよさがわかる。
思・判・表	○ 2つの棒グラフを組み合わせたグラフを作成し、その特徴を考察することができる。 ○ 資料を分類整理し、二次元表に表して資料の特徴を考察することができる。 ○ 表やグラフを用いて、資料の特徴を考察することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 自ら観点を決めて資料を分類整理し、棒グラフや二次元表に表そうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 「正」の字1つが5を表すことを理解し、「正」の字を使った記録を表にまとめている。 ○ 数が少ないものは「その他」にまとめることとよいことを理解している。 ○ 棒グラフの用語とその意味を理解している。 ○ 棒グラフでは、数が多い順に並べると、大きさが比べやすくなることを理解している。 ○ 時系列の順に表した棒グラフのよさを理解している。 ○ 棒グラフのかき方を理解し、棒グラフに表している。 ○ 2つの棒グラフを組み合わせたグラフの読み方や表し方を理解している。 ○ 1目盛りの大きさに気をつけながら、様々な表を棒グラフに表している。 ○ 複数の表を見やすくするために、二次元表にまとめるよさを理解している。	D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ) D(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 時系列の順に表した棒グラフのよさを考えている。 ○ 資料の最大値とグラフ用紙の大きさから、グラフの1目盛りの大きさを考えている。 ○ 2つの棒グラフを組み合わせたグラフから、資料の特徴を考えている。 ○ 二次元表から資料の特徴を考えている。 ○ 表やグラフを用いて、資料の特徴を考察している。	D(1)イ(ア) D(1)イ(ア) D(1)イ(ア) D(1)イ(ア) D(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 自ら観点を決めて資料を分類整理し、棒グラフに表している。 ○ 自ら観点を決めて資料を分類整理し、二次元表に表している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2	年 グラフとひょう
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.整理のしかたとぼうグラフ①	1	○ 表に整理すると、何がどれだけあるかがわかりやすくなることを知る。また、「その他」にして数が少ないものをまとめる方法を知る。 ・ 表に整理する際、「正」の字を用いると数がわかりやすくなることを知る。	(1)イ, エ
1.整理のしかたとぼうグラフ②	1	○ 記録を、けがの場所と人数を表にまとめる。その際、数が少ないものを「その他」にしてまとめる方法を知る。	(1)イ
1.整理のしかたとぼうグラフ③	1	○ 棒グラフに表すと、大きさが比べやすくなることを知る。また、棒グラフの見方、読み方を理解する。	(1)イ
1.整理のしかたとぼうグラフ④	1	○ 棒グラフのかき方を知り、棒グラフに表す。	(1)イ
1.整理のしかたとぼうグラフ⑤	1	○ 記録を、けがの種類と人数を表にまとめ、棒グラフに表す。また、その棒グラフを読む。	(1)イ, エ
2.ぼうグラフの1めもりの大きさ①	1	○ 1目盛りの大きさに気をつけて、棒グラフを正しく読み取ったり、棒グラフに表したりする。 ・ 横向きの棒グラフを読む。また、時系列の順に表したグラフのよさを知る。	(1)イ
2.ぼうグラフの1めもりの大きさ②	1	○ 目盛りのつけ方が異なる3つの棒グラフを見比べ、棒グラフの見方や考え方を広げる。	(1)イ, エ

令和5年度 算数科 第3学年 評価規準

江戸川区立第四葛西小学校

3.表のくふう	1	○ 一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を作成し、その二次元表を読む。	(1)イ, エ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で、二次元表からデータを読み取ったり、データを棒グラフに表す。	(1)イ
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、棒グラフと表の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、棒グラフに表すとよいものを考えたり、1目盛りの大きさに注目してグラフを読み取ったりする。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	3	東京書籍	下	105	2	3	3

大単元(題材名)	そろばん		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ そろばんの構造や各部の名称を理解し、そろばんによる数の表し方がわかる。
	○ そろばんで2位数どうしの加減計算や万の位の加減計算、1/10の位の小数の加減計算ができる。
思・判・表	○ そろばんのしくみに着目し、万の位や1/10の位の小数の加減計算の方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ そろばんを使った計算のよさに気づき、加減計算に用いようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ そろばんの構造や各部の名称を理解し、そろばんによる数の表し方を理解している。	A(8)ア(ア)(イ)
	○ そろばんで2位数どうしの加減計算や万の位の加減計算、1/10の位の小数の加減計算をしている。	A(8)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ そろばんのしくみに着目し、万の位や1/10の位の小数の加減計算の方法を考え、説明している。	A(8)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ そろばんによる計算のよさを学習感想に書いている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
年	
年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
そろばん	2	○ そろばんの構造や各部の名称を知り、一玉、五玉の置き方、はらい方を練習する。	(1)ウ
		○ くり上がりのない(2位数)+(2位数)や(何十)+(2位数)の運珠法を理解する。	
		○ くり下がりのない(2位数)-(2位数)や(何十)-(2位数)の運珠法を理解する。	
		○ 一万の位や、1/10の位の小数の運珠法を理解する。	
		・ 「ますりんつうしん」で、そろばんへの興味・関心を高める。	